

季刊みやだのみかた

第1号

2008年7月1日発行

宮田村をもっと元気にする会(代表:天野 早人)

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村3250番地

電話・FAX 0265-85-2017

http://www.miyadajin.com/

amano@miyadajin.com

目次

巻頭言 1

臨時会・定例会の動き 2

特集 中心市街地のまちづくり 3~5

注目の話題 6~7

主な活動と収支報告 8

編集雑記 8

/// 巻頭言 創刊のごあいさつ

盛夏の候、ますますご健勝のほどお喜び申しあげます。さて、先の宮田村議会議員選挙において、大好きな宮田村という故郷を舞台に、本格的に働く機会を頂戴することができました。

皆さまのご期待にこたえるべく、宮田村をもっと元気にするため、全力を尽くしていく所存です。引きつづき、皆さまのご指導、ご鞭撻をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

ところで今、地方議会に厳しい視線が向けられています。たとえば、日本世論調査会の調査によると、地方議会の現状に「満足している」と回答した人は32.5%にすぎません。それに対して、「満足していない」と回答した人は60.8%にもものぼります。「満足していない」と回答した理由をみると、「議会の活動が住民に伝わらない」が

53.3%で、もっとも多くなっています。このことは、深刻に受け止めなければなりません。

いうまでもなく、行政や議会が住民とともに悩み、試行錯誤しながら、地域の課題を解決していかなければならない時代です。その第一歩は、行政や議会が「説明責任」を果たして「透明性」を高め、地域の現状を住民の皆さんと共有することからはじまります。それができなければ、いかに優れた政策であっても、住民の皆さんの理解と信頼を得ることはできません。

本誌「季刊みやだのみかた」を発行する理由も、そのことと無関係ではありません。議会をもっと身近に感じていただけるように、努力していきたいと考えています。

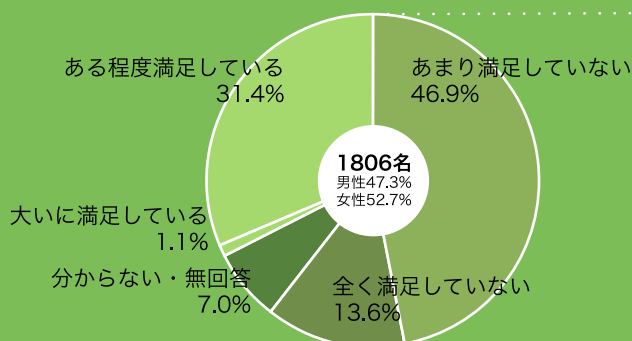
宮田村議会議員

天野 早人



地方議会に対する世論

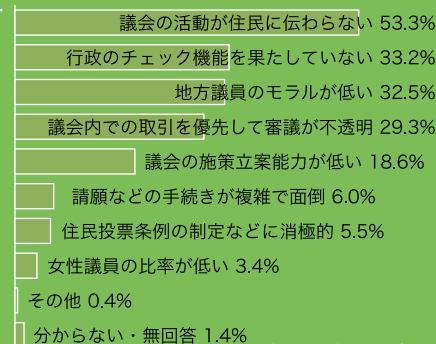
● 地方議会の満足度



調査：共同通信社・日本世論調査会 2006年12月
対象：全国の20歳以上の男女3000人(回収率60.2%)

● 満足していない理由

複数回答可・総回答数1094人



/// 臨時会・定例会の動き

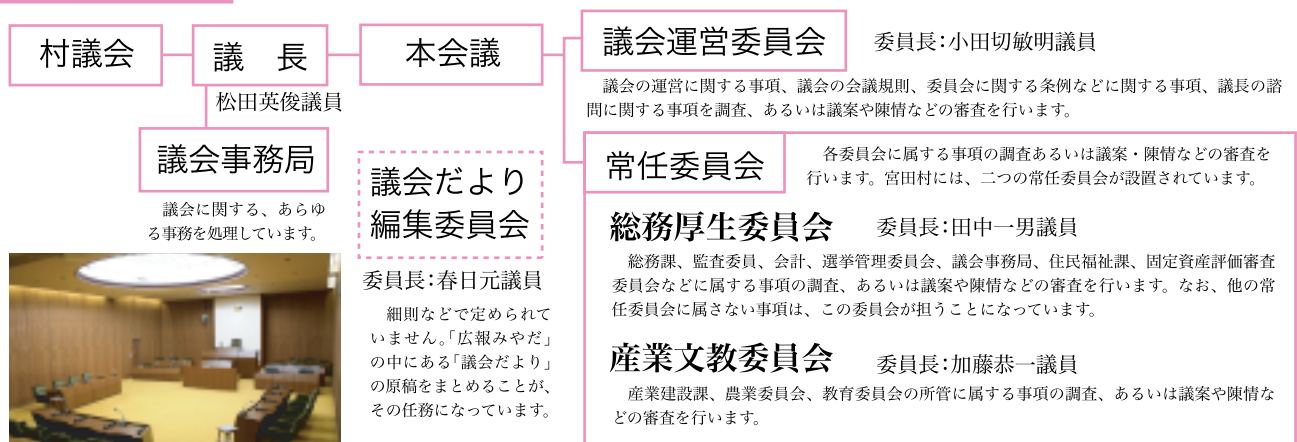
4月 第2回宮田村議会臨時会

2008年4月7日(月)

4月7日、第2回宮田村議会臨時会が開催されました。議長、副議長などを選任するものです。わたくしは、議会では「総務厚生委員会」と「議会だより編集委員会」への所属が決まりました。また、議員にわりあてられた審議会は「宮田村環境審議会」、「宮田村上下水道運営委員会」、「宮田村商工業振興協議会」、「宮田村都市計画審議会」に所属することになりました。

なお、宮田村議会では申し合わせにより、それぞれの任期は2年間とされており、4年間の議員在職中に1回改選されます。全議員の主な所属は「広報みやだ」第399(2008年5月)号の6ページに掲載されています。

宮田村議会の組織図



6月 第2回宮田村議会定例会

2008年6月11日(水)～18日(水)

6月18日、第2回宮田村議会定例会が閉会しました。年4回(3月・6月・9月・12月)ある定例会の一つです。2日目と3日目には、選挙後初の一般質問が行われ、12人の議員のうち10人が質問しました。

議事内容

- 11日(水) 本会議(議案上程、理由説明、一部議案の質疑・討議・採決)
- 12日(木) 本会議(一般質問)
- 13日(金) 本会議(一般質問)
- 14日(土) 休会
- 15日(日) 休会
- 16日(月) 休会(産業文教委員会)
- 17日(火) 休会(総務厚生委員会)
- 18日(水) 本会議(議案質疑・討論・採決)、全員協議会

議案採決

歳入増にともなう2007年度分の歳入歳出額の補正などの「専決処分」8本、「条例改正」3本、上伊那広域連合の事務所住所の表記変更などの「規約変更」2本、「補正予算」3本の計16本の議案に加え、議会選任による農業委員3人(田中一男議員ほか)の「人事選考」1件、内閣総理大臣などにあてた30人学級実現や教職員の定数増を求める意見書などの「請願・陳情」3本が、原案どおり可決されました。詳細は「広報みやだ」第401(2008年7月)号をご参照ください。

一般質問内容

宮田村議会の一般質問は、1人につき、答弁も含めて最大40分の時間が与えられています。ただし、一つの題目につき、3回までしか質問が認められていません。

今回は、おおよそ一人あたり2件の質問をしており、内容別に分類すると右表のとおりです。

● 議員の質問内容

道路・交通	5	子育て・教育	3	医療	2
防災	2	観光	1	ごみ	1
中心市街地	1	農業	1	福祉	1
その他	2				

特集

中心市街地の まちづくり

/// はじめに

少子高齢化社会や循環型社会に対応した、まとまりのある生活環境を整備するため、防災や防犯の観点からも、あるいは有効な土地利用を実現していくためにも、そろそろ本腰を入れて「中心市街地のまちづくり」に取り組まなければなりません。

これまで、村や村商工会などにより、この問題を考える上で参考になる調査研究がまとめられてきています。たとえば、1995年に村商工会青年部が実施したアンケート調査では、駅周辺について「現状のまま満足している」と回答した方は3.5%にすぎません。1999年に村が実施した総合計画に関するアンケート調査でも、駅周辺の開発について「必要ない」と回答された方は10.4%にとどまっています。

そうした調査結果もあってか、これまで多くの村議会議員が、一般質問で「中心市街地のまちづくり」を取り上げています。ところが、「過去にも多数の指摘をいただいている」、「土地の所有権の問題がある」、「都市計画マスタープランにそって進めていく」という答弁が繰り返されてきました。

たしかに、都市計画マスタープランには「中心市街地の空洞化をどうするのか」、「歴史的建造物をどうするのか」という文言が入っていますが、具体的に何をやるのか、つかみきれない内容にとどまっています。

2005年以降、新しい展開があったことは事実です。しかしながら、なかなか具体的な姿が明らかになってこないというのが、村民共通の認識ではないかと考えています。

●日本の中心市街地活性化政策

1998年の「まちづくり三法」の制定以降、中心市街地再生の機運が急速に高まりました。以降、多額の補助金が使われましたが、総務省の調査によると、その成果は少なかったようです。

新しい建物や道路にお金をかけるだけでは、中心市街地は活性化しません。実効性のある計画をまとめ、できることから着実に実践することが求められます。

●宮田村の中心市街地の現状

宮田村の中心市街地は、町一区、町二区、町三区にまたがっています。したがって、中心市街地だけにしぼった正確なデータを把握することができません。ここでは、あくまで参考までに、町二区を取り上げたいと思います。

まず、村全体の人口推移をみると、1978年から2007年までに1798人増加しています。ところが、町二区に限ると352人減少しています。減少しているのは、町二区とつつじが丘区のみで、つつじが丘区は同期間に101人減少しています。

次に、1990年から2000年までの高齢化率の推移をみると、村全体の高齢化率は約15%から約20%へと、およそ4%上昇しています。一方で、町二区は約12%も上昇しています。

三つ目に、1997年から2007年までの村全体の農地の転用状況を確認すると、約40haの農地が転用されており、その約半分が宅地に転用されて

います。

小さな村の中で、ドーナツ化あるいはスプロール化が、かなり進行していることがわかります。

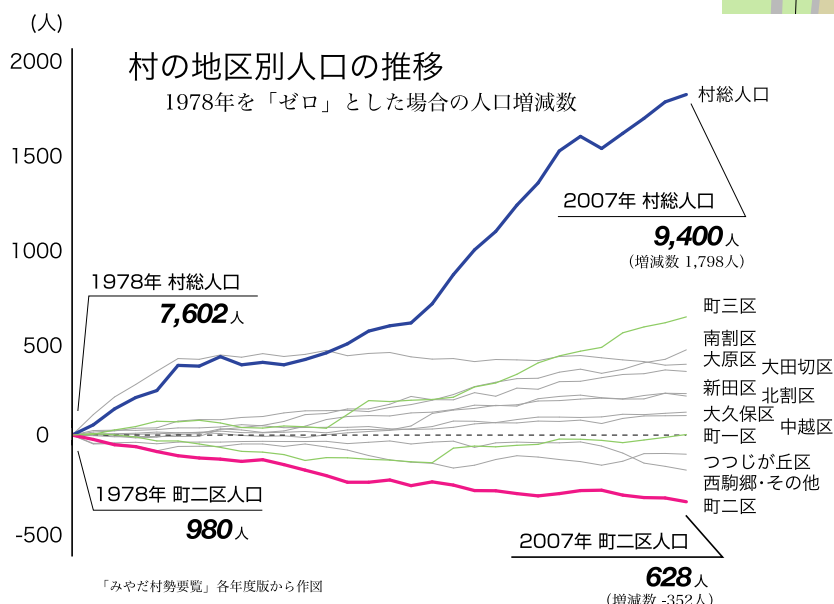
●中心市街地に関する宮田村の取り組み

2005年12月に、県道栗林線、村道町西裏線、駅南線で囲まれたエリアの地権者が集まって「地権者懇談会」が開催され、2006年2月には土地の所有者と借りている方も含めた「関係者懇談会」が設置されました。その中から数名を選出し、同年12月に「みやだ中心市街地研究会」が発足しました。なお、2007年に同研究会が、土地の所有者と借りている方を対象に実施したアンケート調査を実施した結果、「整備が必要である」という回答が80%に達しています。

村は2007年度に10万円、今年度は50万円の予算を計上しています。2007年度は、コンサルタントへの謝礼とアンケート調査に使われましたが、今年度の用途は決まっています。



▲みやだ中心市街地研究会の検討範囲
(色の部分)



【用語解説】

まちづくり三法…中心市街地の活性化に関係する三つの法律。

ドーナツ化…中心部の人口が減少し、郊外の人口が増加する現象。
スプロール化…住宅などが郊外へ無秩序に拡大していく現象。

/// 質疑・答弁の要点

7月中に、宮田村のウェブサイトにて全文が掲載される予定です。

<http://www.vill.miyada.nagano.jp/page.php?tp=00000169>

質疑

中心市街地の空洞化についての現状認識

答弁（村長）：たいへん深刻な状況。駅前から県道宮田沢渡線周辺一帯の活性化は、村の大きな課題であると認識している。

質疑

中心市街地に関するこれまでの取り組みとその成果

答弁（村長）：2007年12月より、県道栗林線、村道町西裏線、駅南線で囲まれた関係者で数回の懇談会を行ってきた。現在、宮田中心市街地研究会で研究を進めているところ。研究会は、地主の代表と借地借家の代表、駅前整備を行っている一輪の会の代表で構成している。昨年、関係者にアンケートを行った結果、9割が整備を希望しており、具体的な段階へ進めてよいという確認がとれた。

質疑

中心市街地の再生に向けた今後の課題

答弁（村長）：一輪の会による駅前の環境整備は、地主の好意があつてのもので、このままというわけにはいかない。研究会を即急に軌道にのせて、専門家を加える中で、具体的な研究に着手していきたい。

質疑

歴史的建造物を中心市街地のまちづくりとどのように関連づけるのか

答弁（村長）：江戸から明治の古い建物も多く残されているが、ほとんどが一般住宅であり、本陣のように歴史的な意義を持っているものは少ない。歴史を大事にする、文化を大事にするという位置づけでは重大な問題であり、研究の討議のなかに提案として収めていきたい。

質疑

村が想定しているエリア、あるいはその関係者だけでなく、近隣の商業者や居住者、研究機関の力を借りてはどうか

答弁（村長）：委員会の拡大は過去にも検討したが、中心となるところが一本にならないと、まとまらないということで、エリアが広がらなかったという経過がある。今後の委員会構成は、多くの声を求めながら、市街地とすべき範囲を明確にしていきたい。

質疑

2008年度予算に計上した駅前整備調査費50万円の用途

答弁（村長）：開発行為には専門的なノウハウもあるので、そういった勉強あるいは視察などの研究費用にしたいと考えているが、具体的な部分は明確になっていない。

/// おわりに

今後「中心市街地のまちづくり」を進めていくために、三つの視点が重要であると考えます。

まず、ドーナツ化あるいはスプロール化を、適正に調整する方法について検討しなければなりません。そのことは、中心市街地だけの問題にとどまらず、村全体で虫食い状態になっている農地の保全にもつながるはずです。

次に、村が想定する限られた範囲の関係者だけではなく、近隣の居住者や商業者の理解と参加を得ることが不可欠であると考えます。まず、中心市街地全体をどのように盛り上げていくの

かを固め、その中で駅前エリアを位置づけてくような環境を整えていかなければならないと思います。

最後は、中心市街地の歴史的建造物についての問題です。地域の個性を活かしたまちづくりを進めるためにも、さらには防災上の観点からも、歴史的建造物の専門的な調査を行う必要があると考えています。

以上の課題を念頭に、調査研究を続けていきます。

宮田村議会 「昭和伊南総合病院」研修



5月22日、宮田村議会の昭和伊南総合病院研修が行われ、名誉院長の千葉茂俊氏のお話しをお聞きました。院長は「すべては医師不足にあり、特に産科医の減少が極端である」と語り、研修医自身が研修病院を決められるようにした「新医師臨床制度」の導入と、高齢化で増大する医療費を抑制しようとする政策が、その要因であると指摘されました。

人口10万人あたりの医師数は、全国平均が約200人であるのに対して、長野県は約180人、上伊那が約120人となっており、全国平均より約80人も下回っているようです。

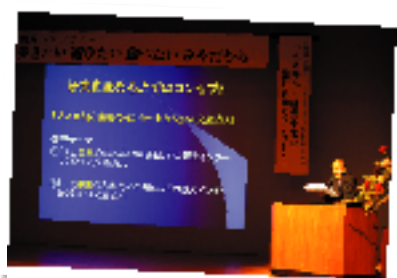
今年4月、同病院の産科医が不在になりましたが、「過重労働」、「訴えられることが多い」、「激務でも報酬は低い」、「研修医は、忙しさを経験して産科医になることを敬遠する」、「国の対策が、なさすぎる」などの理由があるそうです。

また、同病院が生き残るために「保健予防医学の充実」、「目玉となる魅力ある分野の確立」などが重要であるとして、「検診センター」、「透析センター」、「消化器病センター」を設置するなど、独自色を出すよう努めているという報告もありました。

一人の議員としてなにができるのか、積極的に考えていきたいと思います。

注目の話題

宮田村西山山麓観光開発研究会 「中間報告」発表



5月25日、宮田村民会館で宮田村西山山麓観光開発研究会の「観光シンポジウム」が開催されました。はじめに、松本大学の山根宏文教授が基調講演を行い、宮田村の観光を考える上で「地域全体の雰囲気を作り、個性づくりをする」、「地域の特性を活かし田舎の良さをアピールする」、「既存施設の有効活用を考える」などの大切さについて語られました。

次に、日本福祉大学の千頭研究室による「村民地域評価の報告」が行われました。観光に関しては「宮田村全体のアピール面での一体感の向上」の必要性などが指摘されました。

最後に、研究会の「研究中間発表」が行われました。中間報告書には「宮田には観光施設として駒ヶ岳を始め、宮田高原、こもれ陽の径、本坊酒造などがありますが、そこを訪れる観光客はそこだけで完結してしまいそれぞれに繋がっていないのが実情です」とあり、「あるがままの資源を活かした滞在型観光地を目指すべきです」とまとめられています。なお、7月中に最終報告が発行される予定です。

今後は、報告内容を実行していく具体的な組織や手段について、議論を深めることが大切だと思います。

みやだ情報発信事業研究会 「10周年会議」開催

6月29日、みやだ情報発信事業研究会の「10周年会議」が、日本福祉大学名古屋キャンパスで開催されました。学生、教職員、卒業生、宮田村の担当課が集まり、わたくしも卒業生の一人として出席しました。

村と同大学は、2001年に「友好協力宣言」を締結し、活発な交流が行われています。同大の学生有志が、宮田村を舞台に地域づくりを実践的に学ぶ「地域づくりプロジェクト」を発足したことが、そのきっかけです。

同団体が取り組んできた、さまざまな活動のうちの 하나가「みやだ情報発信事業」です。インターネットを使って、宮田村を積極的に宣伝しようと、祇園祭の生中継などに取り組んできました。今回の研究会は、同プロジェクトの発足10周年の節目に「みやだ情報発信事業」の成果や課題、今後

のあり方を検討したものです。前向きな意見が積極的に出されました。

放送開始から今年で9年目を迎え、この事業だけみても、延べ200人を超える学生が参加しています。村の中学生の皆さんが参加したこともあり

ました。今年、7月18日から20日にかけて、学生15人に職員や卒業生サポーターを加えた計25人程度が来村します。詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.475.jp/miyada2008/>



6月24日、宮田村議会の「議会だより編集委員会」が開催されました。今回は、編集内容や発行回数などについて話し合い、初回を「広報みやだ」第402(2008年8月)号に掲載することになりました。昭和伊南病院への視察報告などが、3ページにわたって掲載される予定です。

宮田村議会 「議会だより」8月号から



ブログ 「日々是宮田人」公開

5月6日、ウェブサイト宮田人の中に「日々是宮田人」を設置しました。わたくしが、村づくりへの想いや日々の出来事をつづります。

予算の都合で、本誌「季刊みやだのみかた」を頻繁に発行できないため、そのことを補う目的もあります。従来のウェブサイトとあわせて、ご覧いただければ幸いです。

<http://www.miyadajin.com/diary/>

/// 主な活動と収支報告

4月

5月

6月

- 1 当選証書授与式、村消防団
- 2 辞令交付式
- 3 宮田小学校入学式、宮田中
- 4 学校入学式
- 5 町二区道普請
- 6 村議会臨時会
- 7 伊南消防協議会初任、幹部
- 8 教養訓練、村商工会村おこ
- 9 し実行委員会梅公園お花見
- 10 イベント
- 11 村商工会村おこし実行委員会
- 12 広報部会
- 13 村消防団救護部訓練
- 14 村議会全員協議会、村議会
- 15 村境視察
- 16 梅が里ギャラリー手づくり
- 17 屋オープンイベント
- 18 村消防団・日赤奉仕団の春
- 19 季訓練
- 20 村戦没者慰霊祭
- 21 町二区分館マレットゴルフ
- 22 大会
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31

村商工会村おこし実行委員会

村議会臨時会、村議会全員
協議会、日本福祉大学松本
北信越地域ブロックセンタ
ー担当者との懇談

村議会新任議員研修会

村商工会商工政治連盟懇談会

町二区分館宮田歴史遺跡め
ぐりウォーキング少林寺拳法信州宮田支部開
祖デー奉仕活動、NPO法人
みやだみらい総会

村商工会青年部例会

村議会昭和伊南総合病院研修

村議会管内企業視察研修会

村商工会村おこし実行委員会
梅公園清掃村消防団消防ポンプ操法講
習会、村西山山麓観光開発
研究会観光シンポジウム

村商工会村おこし実行委員会

2008年度県町村議会議員
研修会

村議会定例会本会議

村議会定例会本会議一般質問

村議会定例会本会議一般質問

駒ヶ岳神社奉賛会例大祭

村議会総務厚生委員会

村議会定例会本会議、村議
会全員協議会、日本福祉大
学松本北信越地域ブロック
センター担当者との懇談村消防団ポンプ操法・ラッ
パ吹奏大会村議会・議会だより編集委
員会みやだ情報発信事業研究会
10周年会議

天野早人4月收入 (単位:円)	
報酬(5%削減額)	170,240
差引額	54,700
共済掛金	28,800
所得税	12,000
各種会費	4,500
雑費	9,400
支給額(手取り額)	115,540

天野早人5月收入 (単位:円)	
報酬(5%削減額)	182,400
差引額	60,000
共済掛金	28,800
所得税	12,000
各種会費	18,200
雑費	0
支給額(手取り額)	122,400

天野早人6月收入 (単位:円)	
報酬(5%削減額)	182,400
期末手当	122,572
差引額	97,750
共済掛金	37,950
所得税	22,800
各種会費	15,000
雑費	22,000
支給額(手取り額)	207,222

/// 編集雑記

食糧自給率の低さが話題になっていることもあって、家庭菜園に挑戦しています。今年は「トマトベリーガーデン」というミニトマトを10本植えました。すくすくと生長していく様子を見ながら、わたくし自身も4年の間に、一つでも多くの

成果を实らせなければと思う今日この頃です。

ところで、本誌「季刊みやだのみかた」の第2号は、2008年10月1日に発行する予定です。充実した誌面づくりのため、皆さまのご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

【参考文献】ぎょうせい総合研究所、1999年「宮田村第4次総合計画策定のための村民アンケート調査 集計表」、『信濃毎日新聞』、2007年1月3日、5面。都市計画協会(編)、2007年「コンパクトなまちづくり 改正まちづくり三法による都市構造改革」、ぎょうせい。日本建築学会(編)、2005年「まちづくり教科書9 中心市街地活性化とまちづくり会社」、丸善。野口和雄、2004年「『中心市街地活性化法』を総括する」『クッド研究所、学芸出版社(編)『季刊まちづくり』第2号、12-19頁。細野助博、2007年「中心市街地の成功方程式 新しい公共の視点で考える“まちづくり”」、時事通信社。宮田村、2006年「国土利用計画(宮田村計画)」。宮田村、2006年「宮田村第4次総合計画後期基本計画」。宮田村、2002年「宮田村都市計画マスタープラン」。宮田村、2001年「宮田村第4次総合計画」。宮田村商工会青年部、1995年「明るく豊かな村づくりのために 夢企画21ビジョン アンケート調査報告書及び提言」。矢作博、瀬田史彦(編)、2007年「中心市街地活性化三法改正とまちづくり」、学芸出版社。